

ウィーンからの贈り物 —自由 しかし 孤独、そして 愛—

早乙女フーバー陽子 & ロベルト・ポビチュカ デュオリサイタル

早乙女フーバー 陽子 | ヴァイオリン *Yoko Huber Saotome*

愛知県生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。

東京藝術大学音楽学部付属音楽高等学校を経て同大学卒業。近藤フミコ氏、佐々木はるる氏、大谷康子氏、山岡耕笹氏に師事。

全日本学生音楽コンクール名古屋大会小学校の部第1位。練馬区新人演奏会オーディション第1位。日唄文化協会オーディションで選ばれ東京サントリーホールにてソロ・コンサート。名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。岡山潔氏、服部芳子氏率いる「原村音楽祭」に参加。

1992年～1994年神奈川フィルハーモニー管弦楽団、第一ヴァイオリンメンバー。その間、神奈川フィルとのソロ共演、神奈川フィルメンバーによる室内楽コンサートに出演。アフィニス財団主催「アフィニス音楽祭」にて、シカゴ交響楽団のソロメンバーと、東京サントリーホール、その他にて、室内楽コンサート出演。

1994年～、ウィーン国立音楽大学にて、ウィーン・フィルのコンサートマスター、ライナー・キュッヒル氏のもとで、更に研鑽を積む。

現在、オーストリア・ウィーンにて様々な国籍の生徒、約30人に、ヴァイオリンのレッスンをを行うと同時に、バロック・ヴァイオリンの巨匠エドワード・メルクス率いる「カペラ・アカデミカ・ウィーン」の「美術館コンサート」(オーストリア王宮、ウィーン美術史美術館、ベルヴェデーレ上宮、アルベルティーナ美術館、ペーター教会にて。)、 「バーデンのモーツァルト音楽祭」に、数年来出演。

ホテル・パバゲーノの毎月のコンサートに、定期的に出演、ソロ、室内楽を演奏。

ペーター教会の「モーツァルト・ソナタ・コンサート」に、定期的に出演。グラス修道院、ヴァイトホーフエン城にて、「ろうそくの光コンサート」にソリスト出演。ウィーン音楽劇場協会主催のコンサートに定期的ソロ出演。その他のアンサンブル、ソロコンサートも、ヴァイオリンのみならず、ヴィオラも、多数手がけている。

オーストリア人の夫、娘と共に、ウィーン19区に在住。

ロベルト・ポビチュカ | ピアノ & 作曲家 *Robert Pobitschka*

オーストリア生まれ。ウィーン国立音楽大学で、ピアノを専攻するかたわら、ウィーン大学法学部卒業。

サンクトペテルブルク国立音楽院にて、タチアナ・クラフチェンコに師事。シュレースヴィック=ホルシュタイン音楽フェスティバルにて、リサ・レオンスカヤ、レフ・ナウモフのマイスタークラスに参加。

ブルックナーハウス(オーストリア、リンツ)、ウィーンコンチェルトハウス、ウィーン楽友協会、ミノリテンホール(オーストリア グラーツ)等にて、コンサート。アイゼンシュタット・ハイドンフェスティバル、ドルニー・ルカヴィーチェ・ハイドンフェスティバルのオープニング・オーケストラコンサートにて、ピアノ協奏曲を共演。また、ベルリン ポツダムにおける『ウィーン週間コンサート』、『モンレポス城の夕べ』、オーストリア センメリンクの『夏の夢フェスティバル』に招聘され、演奏。イタリア、ドイツ、ロシア、チェコ、ハンガリー、南アフリカ、ペルー、アメリカ合衆国、中国にて、コンサートツアー。

バイエルン放送、CCTV(中国)、CTV(ペルー)、ベルリン自由放送、ORF(オーストリア)にて放映される。オーストリア・ヴァルトフィアテルにおける、「ろうそくの光コンサート」を主催、兼、演奏家、作曲家として定期的開催しつつ、ドロッセンドルフ・インターナショナル・サマーアカデミーを毎年開催、どちらも話題を呼んでいる。また、ユネスコクラブ・ウィーンの会長も務める。

彼自身の作品の数々は、環境問題など、現代における最もアクチュアルなテーマを扱ったものが多い。例えば、フレン・エヴァ・ライトの詩による環境保護オラトリオ「アトランティアの目覚め」、ウィーン放送交響楽団とウィーン室内合唱団によって演奏された『キリエ・エレイソン-自然に捧げる』、国連の「世界 水の日」に初演されたオペラ『聖マグヌスの生涯』(歌詞:リヒャルト・ブレッチャヘア)など。

今回のプログラムの『12の歌-平和のための祈り』(2004年)は、国連の『世界 寛容の日』に初演された。

また彼の創造性にあふれたピアノ協奏曲『ディープ・ブルー』(テキスト:フレン・エヴァ・ライト)は詩情あふれる協奏曲として、国際的に名高い「オーストリア・カリンティッシュェ・ソナー」にて、2015年8月初演される。



東京メトロ日比谷線「広尾駅」1番出口より徒歩6分